



◎ この冊子・私立幼稚園に関するお問い合わせ

モバイルサイトは
こちらから



公益社団法人 京都府私立幼稚園連盟 親子関係研究所

〒600-8424 京都市下京区室町通り高辻上る山王町561番地 京都私学会館内
TEL: (075) 344-0771 FAX: (075) 344-4177 HP: www.kyoshiyoh.com/renmei/
発行日／2021年5月

京都府私立幼稚園連盟 検索

子どもがまんなかの社会の実現をめざして

こころのねっこ

* cocoro no nekko * Vol. 5



京都の私立幼稚園の子育て情報誌



こころのねっこを 育てよう。

子どもとの生活は、私たち大人に幸せをもたらしてくれます。

わが子の成長を前にすると心を揺さぶられたり、時には気を揉むこともあります。子どもたちは一人ひとり違う個性をもち、思考も行動も育ちのスピードも様々。春が来ると草木や花が芽吹くように、ひとまわり大きく成長します。お母さん、お父さんには、先々の心配をしないで、子どもと過ごす親子の「いま」を大切に。子どもたちが養分を蓄える

「こころのねっこ」を、ともに育てていきたいと思います。

毎日がたからもの

子どもたちにとっては一日一日が貴重な成長の時間。
家族や友だち、先生とのふれあいが、かけがえのない宝物になります。

みちくさも素敵な時間

時には何もできなかったという日があっても、子どもとの時間を楽しめ、一日を無事に終えて夜静かに眠ることができれば、明日への一日につながります。

失敗しても大丈夫！

「いいお母さん」になりたいけれど、「いいお母さんのものさしひって誰がはかるのでしょうか?」「ありのままの自分」で十分、背伸びすることはあります。子どもと同じ年だけのお母さんでいいのです（お父さんもね）。

外に出かけよう

心に余裕がない時は誰でも内向きになります。そんな時は意識して外に出かけてみませんか。子どもと一緒に散歩をして外気浴すると、子どもがいろんな発見をしてくれます。それを共有するだけで前向きな気分になります。

ありのままを見守ろう

子どもにかける言葉がみつからない時は、笑顔で見守ってあげることが大切。子どもは安心感に包まれると、自ずと育つ力を發揮します。

ひとりで頑張らないで

幼稚園に行くと子育て仲間がいっぱい!わたしたち幼稚園も、子育てで生じる不安や悩みについて一緒に考えていきたいと思っています。



乳幼児期に 育てておきたいこと。

今、世界中で
幼児教育が
注目されています。

目に見えない力を育てる
=非認知能力を育てる

想像力・創意工夫する力・探究心や表現力・協調性・
思いやり・意欲・積極性・乗り越える力・粘り強さ…、
これら目に見えない力を「非認知能力」といいます。
逆に「認知能力」と呼ばれるものは読み書き、計算、
知識など数値化できる、主に小学校以降の学習を
通して育つ力です。「非認知能力」が基盤となって、
その上に「認知能力」が積み重なって育つので、
乳幼児期には目に見えない「非認知能力」を育て
ることが、非常に重要なことです。

乳幼児期は、ねっこを育てる重要な時期

子どもたちは一人ひとり、違うタネを持っています。早く芽が出る子どもも
いれば、時間がかかる子どももいます。うちの子は大丈夫? 子育ては
これでいい?といった親の不安にも関わらず、子どもは
自分のペースで成長していきます。焦って結果を
求めるよりも、乳幼児期に大切なのは「目に見え
ない力」をじっくりと養うことです。意欲的に取り
組む、相手を思いやる、感情をコントロールする…。子どもが
幼い時期には、人としての土台「こころのねっこ」を育むことが大切なのです。

見えない力を育むには…

自分は愛されているという
自己肯定感を持つこと

実は、子どもたちは生まれながらにして育つ
力を持っています。例えば、赤ちゃんはお腹が
減ったらその思いをわかってもらいたくて泣き
ます。「ボクはこうしたいんだ!」という自分の
気持ちを押し出し、貫き通そうとする力の
表れなのです。「お腹がすいたのかな?」と
応えてもらうことで、赤ちゃんは空腹を満たす
とともに、安心感ももらいます。その繰り返し
で信頼関係が生まれます。自分の思いを伝え
たり、意欲的に取り組もうとする姿勢を受け
入れてもらうことで、わたしは愛されていると
いう自己肯定感が育まれていくのです。

焦らず、何度も、ていねいに

子どもの思いを受け入れるということは、
思い通りにさせて甘やかす、ということとは
違います。自らの考えを持って自分らしく、
そしてまわりの人と共に生きていく、この2つ
の心をしっかりと備え、折り合いをつけて
いけるような人に育っていくことが大切です。
子どもの思いを大切にしながら、親として
伝えていきたいことは焦らずに、何度も、てい
ねいに育んでいきたいですね。

非認知能力とは…

数値化することができない
心の内面の力



わが家のスター？モンスター？？

かわいくも時々モンスター化するわが子。ほとほと困り果てることもあるけれど、楽しくもある子育て。みんなが通る子育てあるある、もとい、わが家のスターとモンスターを集めてみました。



ママだあ～い好き!
いつでも一緒にいいの

解説

「ママ好き～！」で、くっつきムシに。「パパ、抱っこ～」と、くっつきムシに。いつまでもママ、パパと一緒にいたいのはやまやまですね。とりわけ初めての登園時は大丈夫かなど、親としても心配かもしれません。そこはぐっと我慢してすぐに視界から離れてあげてください。「泣いていないかしら」なんて見ていると、かえって子どもが甘えてしまい、いつまでもくっつきムシに！帰ってきたらギュッとしてあげてくださいね。



解説

今日は幼稚園がとっても楽しくて、遊び疲れただれど、眠たくともなかなか寝つけずに“ギラギラアイ(eye)ちゃん”になっちゃった…。一方で、寝る直前まで遊んでいたために目が冴えて、ギラギラアイちゃんになってしまうことも。なかにはブルーライトの影響を受けた、変異種のギラギラアイちゃんもいたりします。そんな時はお休み前に興奮を鎮めるように睡眠環境を整えてあげましょう。



解説

ごはんがイヤ!制服がイヤ!など、ダダをこねるなんて日常茶飯事。小さい頃は、何が「イヤ」か実はよく分かっていないのに、全部を「イヤ」という言葉でまとめてしまうことがあります。時折、これはイヤだけど、それは本当にイヤなの?と、イヤの区分けを手伝ってあげられることがあるかもしれません。本当に全部イヤな時もあります。大きくなれば、細分化の成功率UP!



解説

ダダコネルンの、衣服特化型。服つて肌身に触れるし、目に見えるので好き嫌いが率直に表れやすいのです。色や素材、肌触り、デザイン…。大人からすると「え? そんなことがイヤなの?」と驚くようなことが子どもにとっては大問題。年齢を経れば“何がイヤなのか”はっきりしてくるので、落ち着いてくるはずです。



自分でできるから
ほつといで!!

解説

自分で選びたい、自分で着たい、自分で食べたい…と、なんでもかんでも「自分で」を連呼する“じぶんでやりたいン”。大人から見ると、ほら言わんこっちゃないといった結果を招くかもしれないけれど、子どもにとっては主体的にかをしようとしている成長の証であります。親が中途半端に手伝ってしまうと、いつまでもその状況が続くので、できるだけそっと見守ってあげましょう。

幼稚園で何してたの？

解説

子どもの発達段階において、2、3歳の子どもはまだ、“私”と“あなた”（親や先生といった大人）の1対1の関係で過ごしています。発達に伴って社会性を獲得し、一緒に遊ぶ他人を“友だち”として認識するのは、もう少し後のことです。



解説

時折聞かれる「友だちとの遊びのためには、アニメを見せた方がいいから」という疑問。そこに答えではなく、ご家庭の判断にお任せします。ただ、子どもの言う「知っている」「できる」といった基準は大人よりも大味で、名前さえ知つていれば、アニメを見たことがなくても、もうそれは「知っている」だたりします。もし、何も見ずに〇〇ごっこをしていたら、友だちの話から知らない部分を補う情報収集力と想像力をすごい!と思ってあげてください。



「幼稚園のものは、みんなのもの」ということを、本当に理解できるのは、年中、年長ぐらい。“自分が使っているものは、すべて自分のもの”という感覚を2、3歳の子どもたちだけで解決するのは難しいので、時には大人が介入することも必要。「次は〇〇ちゃんね」「10数えたら交代ね」と、順番を伝えていくことで、その後の成長に繋がります。



解説

「今日しかできないこと」という有難みが、大人の感覚とは違います。特に小さい子ほど、「非日常」よりも「いつものこと」、「サプライズ」よりも「すでに経験のあること」の方が好きなので、「いつもの遊び」が好きなのは自然なことです。もちろん、無理のない範囲で、大人からその時にしかできない体験に誘い掛けてあげるのはOK!

自由気ままにさせることが、「子どもに寄り添うこと？」

解説

「子どもに寄り添う」というワードが随分世間一般に浸透してきました。それは、「子どもの言いなりになる」と全く違います。子どもの声に耳を傾けることは大切ですが、公共の場などでは、その声に対して親がどう応えるか、社会規範と照らし合わせて判断する必要があります。また、子どもが自ら社会の規範を感じることも大切なことで、親として子どもの思いと社会とのバランスに悩むこと自体が、“子育て”に向き合っていると言えるでしょう。



子どもにタブレット、すぐ与えがち。
動画、アニメ見放題。

解説

家の合間や公共の場で子どもの気を紛らわせるのに便利に使いがちなデジタルコンテンツやタブレット。TVゲームや動画の視聴は、子どもにとっては“受動的で強い刺激”となり、慣れすぎると本来、子どもの成長に重要な“主体的に微細な刺激を感じ取る力”を阻害するリスクもあります。たとえ長時間、見続けられたとしても、それは集中力ではありません。利用する時は、適度、適量が大切です。

わが家のスター？モンスター？特集のまとめ

眩しいくらい大きな子どものエネルギーは、時にスターのように輝いて見えることもあれば、時にモンスター化して手に負えなくなることもあります。今回の特集から、スターとモンスターの間には、明確な区別がないことに気づきいただけなのではないでしょうか。大切なことは、同じわが子の様子でも“時”と“場合”、受け取り方によって二面性があるということです。見事にスター化させる方法も、モンスター化を鎮める方法も、確かな指南書があるわけではありません。試行錯誤の中で、わが子のスター性とモンスター性を見出しつつ、「終わってみれば楽しい子育て」を目指して、幼稚園と一緒に頑張っていきましょう。





入園前のお子さんの様子で、気になっていたこと

田中今回、事前に「入園前のお子さんであること」について保護者の方々にアンケートをとり、その結果から見えてくる、今の保護者の子育てに関する悩みや疑問にお答えするかたちで、座談会を進めていきたいと思います。

大西アンケートで最も多かったのは「集団生活で他の子と仲良くできるか」という心配です。入園前は家庭の中で少人数で過ごしていたお子さんが、幼稚園という大人数の中でうまく振舞えるか、という社会性にかかる部分ですね。

北村「幼稚園に入って親と長時間離れて過ごすことができるか」という心配事も、社会性にかかることがあります。母子分離的な子どもの自立に関する視点でもあります。他にも「こだわりが強い」とか「親の言うことを聞かない」なども続いますが、この2つの回答は、なにか表と裏の関係のように思います。

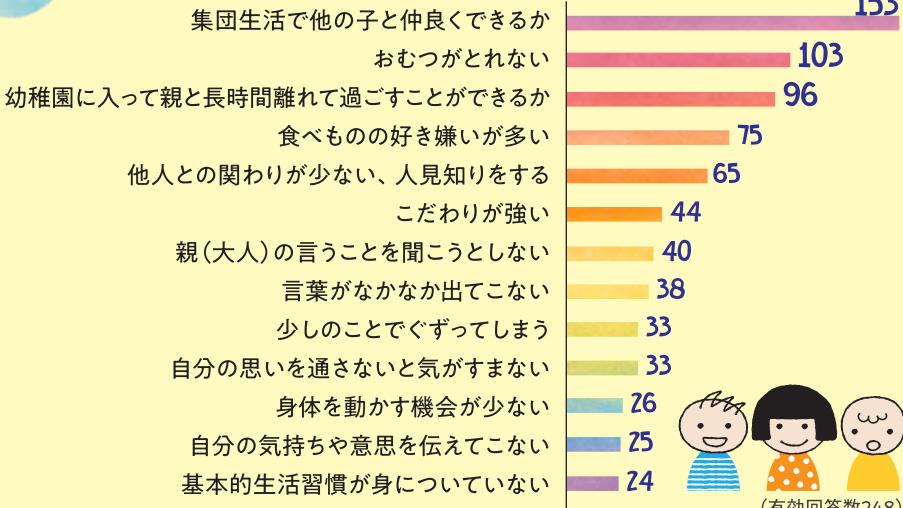
大西ちょうど幼稚園に入る前後、2~3歳のお子さんの発達の姿っていうんですかね。

北村私がこのアンケート結果を見た時、入園前の時期に多くのお子さんが、幼稚園の親子登園などに通っておられるんじないかと感じました。親子で過ごしている場面と子どもだけになった時の我が子の姿がおそらく違うと感じて、保護者の方は「私と離れて本当に大丈夫かな」という不安を抱いていらっしゃるのではないかと思います。そばにいない時の子どもの様子について「私、ちゃんと育てられているかな」という不安の裏返しもあるかもしれませんね。

金沢未就園児の保護者の方にとって、普段の生活の中に幼稚園があまり溶け込んでいない段階だと、自分のお子さんが集団生活で過ごす姿をイメージづらい。その中で、大勢の子どもたちの輪の中に入った時に「うちの子にどれだけ協調性があるのか?」とか「まわりの子と馴染んでくれるのか?」といった心配が出てくるのかなと思いました。

北村子どもが不安というよりも、子どもの行動を親が不安視しているように感じることもありますが、子どもの姿であっても親自身の悩みであっても、そのうち慣れるというのが私の思いです。そのうち子どもは自然と友だちを求めていくし、保護者の方も「ああ、これで安心」という場面も出てくるので「何も心配しないで、焦らないで」ってお伝えしたいですね。

入園前のお子さんの様子について、気になっていたことは何ですか？



おむつがとれないと幼稚園に入れないと

田中今まで年少での入園というのが一般的だった幼稚園が、満3歳からであったり、2歳児のプレ幼稚園からというのが増えてきていますよね。通い始める時期が早まるこによって、大きく変化していることのひとつに「おむつ」があると思っています。

大西アンケートでも「おむつがとれない」は2番目に多かったです。子ども自身の生活習慣にかかる部分です。

田中今までだと「幼稚園に入る頃にはおむつをとつていきましょうね」というのが基本にあって、「うちの子、まだとれてないんです」「ああ、いいです、いいです。やっていく中でとれていくでしょうし、一緒に頑張っていきましょうね」で済んでいたんですけど、そもそもそのスタート時期が変わってきたので、そこに対して同じ状況でも言葉がけが変わってきますよね。

北村この時期の半年、1年の違いは大きいですよね。

田中うちの園でいうと、だいたい15~20年ほど前は、年少の入園時にはおむつがとれていたと聞いて

います。入園前に見学に来られた時には「まだ、おむつが外れてないんですよ」と言わなくても、「(入園までに)じゅうぶん間に合いますよ」という考え方をしていました。ところが、だんだんパンツを履くことを嫌がる子もいて、おむつを履いている方が安心するという子もいたりします。それを無理にパンツにするのも、ちょっと違うなという雰囲気になってきて、今、うちの園でも「入園時におむつがとれてなくても、それが嫌で幼稚園を嫌がるくらいなら、まずは幼稚園に楽しく来てください」という対応をしています。ですから、満3歳児はかなりおむつの方が多いですね。

北村入園の時期が満3歳でも年少でも、集団生活を始めるまでに、おむつが外れないケースが年々多くなっていると感じています。

金沢「環境」による要因が大きいと?

北村そのような気がします。同じような年齢の子どもがトイレに行って、座って、おしっこをしてスッキリした顔をしているのを見たら、座ってみようとか、男の子であれば、年上の子が立ってしているのを見て、自分もしてみようとか、そういう視覚的な刺激に影響される。それが「社会性の芽生え」にも繋がるのかなと思います。

大西確かに今の家庭には小便器もないし、みんなでトイレに行くこともないですよね。

どうする？トイレトレーニング

金柳うちは園見学の際にトイレも見てもらっています。その時に一番多い質問は「トイレトレーニングは園でしてくれますか？」というものです。

北村うちの園では「お任せください」と言っています。真面目なお母さんほど「させなくちゃ」と思われるの、そこは「そのままでいいですから、連れて来てください」と。お母さんの緊張をとってあげることが、一番にケアしておきたいことだと思っています。



田中トイレトレーニングがプレッシャーになって、幼稚園に行きたくないってなると本末転倒なので、あまりそこにこだわらなくてもいいと思うんですけど、おむつがとれるって子どもにとってものすごく達成感がある。そして、親にとっても我が子の成長を感じられる瞬間なので、そこをできるだけ親子で共有してもらいたい気持ちもあります。だから保護者の方には「幼稚園だけじゃなく、お家でも子どもが嫌がらない範囲で夏場とかトイレトレーニングしやすい時に、子どもにできたという感覚を味わわせてあげましょう」とお話ししています。

北村まさに伝え方ですよね。

金柳「いつかはとれることなので安心してください」という不安の取り除き方と、もうひとつは「習慣」ですかね。うちの園ではトイレをしたくなくても、ある程度の時間が経ったら担任の先生がみんなと一緒に行くように、と声をかけています。保護者の方には

「園ではまず“トイレに入る”という習慣をつけますので、ご家庭でも“トイレに行く”という習慣をつけてください」というようにお伝えしています。



北村「機会」って大事ですよね。決まった時間に行く、何かをした後に行く、という習慣が家でもついているとトイレトレーニングもスムーズにいくと思います。でも家の生活って私もそうだったんですけど、お母さん主導というか、母親の都合にあわせて、子どもの時間とかいろんなことが左右されていくので、その辺りの生活のリズムを守るというのは、子どもが生まれてからずっとついて回っているなと思います。

大西トイレにしても、食事とか睡眠にしてもそれぞれ生理現象で、個人差がものすごくあると思うんです。それをトレーニングして自分でできるようにするには、その子その子を丁寧に見てあげないといけない。きょうだいでも次のトイレに行くまでの時間が違ったりするので、それを一律に何時間経ったからトイレに行かせるとなると、その子にとって全然合わない生活のリズムをつけるようになっていくような気もします。

金柳一方で何か目安がないと「どうしたらいいの？」という親の気持ちもわかります。先程の「トイレトレーニングをしてくれますか」という質問には、どう答えられますか？

大西うちの園でも「活動と活動の間にトイレに行くように声をかけています」というようなお話をします。ただ子どもにとっては、家でトイレするのも幼稚園でトイレをするのも違いはない。幼稚園だけでトイレトレーニングをしているから、おむつが取れて自分でトイレに行くようになるわけではないんです。やはり、お家でどんなふうにトイレを促すかとか、保護者のお話を聞きながらその子にあわせて、

幼稚園とご家庭が連携して、おむつが外せるよう、自分でトイレに行くように一緒にやっていきましょうね、という感じですね。

田中大西先生のおっしゃるトイレというのを「その子にあわせたものにする」というのが、僕は大賛成なんですけど、でも一方で、ギリギリになっちゃうなら、毎回リズムよく行くんだよと体験的にやっておいた方がいいとも思うんです。だから「時間になったら行きましょう」形式もありだと思います。2歳の子どもが尿意を自覚できるかというと、まだまだそういう段階ではないのかなというのはあるので。大人が定期的に声をかけていくと、子どもの方も少しずつ意識できるようになっていくと思います。



北村子どもが基本的生活習慣を身につけていくのに、周りの大人の働きかけって大切ですよね。

田中「トイレでするとお母さん、喜んでくれるんだ。また頑張ろう！」というのは、子どもにとって動機づけになりますよね。実際にうちの園で満3歳の園児が初めてトイレができるようになった時に、担任の先生も自分のことのように喜んでいて、それが子どもに伝わってさらに意欲的になっていくということもありました。

金柳子どもにとっても、大人にとっても素敵な経験ですよね。

これから幼稚園をお考えの保護者のみなさんへ

田中今回のアンケートでは本当に沢山の不安や疑問を挙げてくださいました。子どもが成長していく過程でクリアできる課題については、私たちは専門的

知識を持って助言することができるし、その点では安心して欲しいと思います。もっと知っておいて欲しいことは、幼稚園は具体的な不安や課題を解決するところではなくて、不安や課題があることをそのまま受け入れた上で、その子がどう生きていくかと一緒に考えるところ、ということなんです。

金柳ここに挙がっている不安というのは、言い換えると、保護者自身の「気づき」でもあるので、まず気づいているということに関しては、すごく健全ですし、自信を持っていたいと思います。育児書やテレビ、インターネットの情報や価値観だけがすべてではないですから、不安や疑問があればどんどん出して欲しいですね。

大西子ども一人ひとりがみんな違うように、発達の悩みや疑問を解決する方法もその子によって違い、ご家庭で何を大切にされているかも様々です。お子さんをどんな幼稚園に入園させようかと考える時、園の見学等で子育ての悩みや疑問を投げかけてみたいと思うんです。それに対する幼稚園的回答もそれぞれですので、その中からしつくりとくる答えが返ってくる、ご家庭の考え方についてのなあ、という幼稚園がきっと見つかるのではないかでしょうか。



北村幼稚園は子どもが好きなことをするところ。幼稚園生活で親も子もいろんな経験をして、卒園する頃には親も子どもの「好き」に寄り添えるようになっています。子育ては親育てって言いますし、幼稚園での子育ての経験が親自身の成長にも繋がります。私たちも子どもや保護者の思いを受け止め、寄り添って一生懸命に取り組んでいますので、保護者のみなさんもどうぞ一緒に幼稚園を楽しみましょう。

※ 座談会とプロフィールは、2020年取材当時のものです。

幼稚園の四季折々



春を見つけに

草木が芽を出し、花を咲かせ、虫たちが動き始める季節。トイレットペーパーの芯を双眼鏡にして、わくわくするような発見の世界に出発!

実験

びわの実が熟して落ちていました。実を潰したり、水に入れたり、凍らせたり、どんどん発想が展開し、「びわごおり」に。どんな感じになるか、今から楽しみです。



紅葉がり

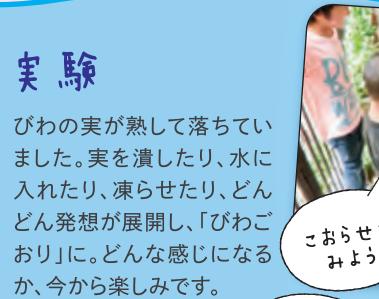
紅葉を拾い、水たまりに浮かべたり、沈めたりして遊んでいます。「はっぱ、〇〇ちゃんのおでてみたいやね。」と言うと、手でモミジの形を表現してくれました。

どんな音?

ドングリをペットボトルに入れてみると、音に違いがありました。どれくらい入れると、どんな音が出るのかと試しています。



春は新しいことがいっぱい!
身の回りの変化に興味を持ち、自ら進んで探索活動ができる季節。目を凝らして見れば、いつもとは違って見えるはず。視点を変えるだけで、大きく子どもの心はくすぐられます。



自然物も遊びの対象。もちろん、それを変化させる遊びも大好きな子どもたち。さあ、レッツチャレンジ!この写真から何が見えてきますか?会話?動き?笑顔?
大人は、子どもたちのやりとりを見守る余裕も大切です。



はっぱをうかせて

紅葉を拾い、水たまりに浮かべたり、沈めたりして遊んでいます。「はっぱ、〇〇ちゃんのおでてみたいやね。」と言うと、手でモミジの形を表現してくれました。

これくらい?

ドングリをペットボトルに入れてみると、音に違いがありました。どれくらい入れると、どんな音が出るのかと試しています。



水たまりに、長靴をはいてじゃぶじゃぶすることが好きな子どもたち。そんな体験と綺麗な葉っぱを浮かべて遊ぶ姿は、芸術です。“服の汚れは洗濯で消えるけれど、夢中で遊んだ経験と思い出は決して消えない。”

手からドングリがこぼれ落ちてコロコロ。そこから転がす遊びに大変身!滑り台の上を転がしてみたり、別のものを入れてみたりと楽しみがどんどん広がります。発展する遊びは、ゴールが見えないもの。時には広い視野で遊びと向き合うことも大切です。

めぐる季節にあわせて遊ぶ中で、好奇心や興味が刺激されます。「不思議だなあ?」と「わかった!」、「できるかなあ?」と「できた!」といった体験をくりかえすことで、自信が生まれます。

幼稚園で体験する遊びは、お家でもできることが多いので、ご家庭でやってみてくださいね。



まわれ かざぐるま

風車を作ったのですが、風が吹いていません。“走ったら戻るで!”みんなで走ると風車も気持ちよく回ります。

変化はするもの?させるもの?子どもたちの遊びを充実させるためには“変化”という要素も必要です。時にはモノを、時には相手を、そして時には自分を。“柔軟”に考えることが、“変化”を生む一つのきっかけになります。

かんしょく遊び

片栗粉と水、絵の具を使い、水加減で感触を楽しんだり、絵の具や食紅で自由に染めて遊びます。友だちと一緒に作ったり、相談したり、見せ合ったり、感覚を共有する姿も見受けられます。



片栗粉が遊び道具に大変身!水の量、色や触感を変化させ、楽しみながら作ります。遊びはその時々の育ちが出来るもの。自分でコントロールできる要素が入っていることも遊びの質をあげる秘訣です。



せぇーのっ!

大小様々な葉っぱ。グラデーションも多彩でとてもきれいです。踏んで音を楽しんだり、集めて花束にしてみたり…。発想は無限です。『せぇーのっ!』と声を合わせて上へ舞い上がりさせ、遊びます!

アクションに対して、生まれるリアクション。そこから自由に発展する要素を含んでいるのも遊びの楽しみの一つです。花びらや落ち葉、雪など季節の自然で遊んでみませんか。色を付けたり、貼り合わせたりして“〇〇作品展”なんて楽しいですね。

手のばい菌

手洗い前にチェック!でばい菌を見てみると、「え!!」「これが、ばい菌!?」と驚きの様子。「これからもちゃんと綺麗に洗うね!!」と手洗いの大切さを知りました。



手洗いの大切さを見る形に。小さい子どもは、“体験を通して育つ”が基本!!聞いて知っていることと、実際に体験したことには、大きな差が。ばい菌を見せ、手に付着しているものを意識することで、これから先も手洗いを丁寧にできることでしょう。

おとうさん、おかあさん いっしょにあそぼうよ。

親子で
手あらい
うた

作詞・作曲松嶋聖児
うた:舞鶴笑顔合唱団

今、幼稚園ではこんな遊びを楽しんでいます。時間を見つけて
一緒にお子さんと遊んでみませんか。遊びを通じて、
子どもたちの“こころのねっこ”はぐんぐん育ちます。

オリジナルの手洗い歌ができたよ!
お歌に合わせて、手を洗って、ピカピカにしよう!

※楽譜は【京都の幼稚園 こころのねっこ】[検索](http://www.kyoshiyoh.com/guardian/cocoro-nekko/)
<http://www.kyoshiyoh.com/guardian/cocoro-nekko/>

歌詞

せっけんを てことり しゃかりと あらいましょう
てのひら あわせて ゴシゴシ でのごうも モミモミ

ゆびさきも あらいましょう つめの あいだまで
ゆびくんで ！ぱた！ぱたと チョップもわすれずに！

おやゆびを～ ニギニギ（はんたいのても わすれずに！）
てくびも ニギニギ（さあ、みずでながすよ！）

ゆっくりと ながしましょう ピカピカになったかな?
かわいた タオルでフキフキ これで できあがり
これで できあがり イエイ♪

おすすめえほん



どんな いろが すき

作詞・作曲:坂田 修／絵:100%ORANGE
出版社:フレーベル館

昔から広く親しまれている童謡が絵本に!カラフルな
イラストが子ども達を引きつけます。裏表紙には楽譜も
書いてあります。歌いながら読み聞かせをすると、子ども
達は大喜び!親子のふれあいにぴったりの絵本です。

“子どものことば”を大切に
読んでいる最中に子どもは、つぶやき
(心のことば)を発します。耳を傾け、
子どもの世界を広げてあげましょう。

過度な表現は 控えましょう

子どもが心を落ちさせ、
想像力を広げられるような
「音量」や「スピード」を工夫
してみましょう。

オリジナル 照明

親子で過ごすお家時間を
もっと素敵に!お部屋を美しく
照らすライトを作成しましょう!

楽しい音源は
QRコードから♪



『しゃちゃつと』

【用意するもの】

- 筒型の物(紙コップやカップ
ラーメンの空き容器など)
- 黒い画用紙
- カラーセロファン(いろんな色)
- のり
- 工具(カッターナイフ・画びよう
クラフトパンチなど)
- 懐中電灯

応用



大型の懐中電灯を持ち、
作品をかぶせて天井や
壁に点灯すると…

うわ! すごい!!!!



オリジナルランプネタリウムの完成!!

余韻を 楽しませてあげて

読み終わってもすぐにめぐるのではなく、子どもが満喫してから次ページに移りましょう。最後の裏表紙までゆっくり見せてあげてください。

むしこサーカス

作・絵:タツミ カオ／出版社:PHP研究所
カブトムシやカメムシなど、たくさんのむし達による「驚きの技」に子ども達も思わず拍手をしてしまいます。最後に挑戦される、たくさんのアリ達による「空中ブランコ」!無事成功するのでしょうか?

POINT!

黒い画用紙を
あらかじめ扇形に切っておき、
三角帽子の形にしてもかわいいよ!



筒型の物を黒い画用紙で
覆い、工具を使って
いろんな形の穴を開ける

②

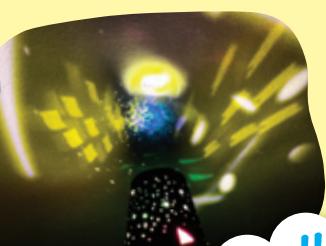


デザインした模様
に、のりでカラー
セロファンをはる



わお! キュウ
ア!!!

③



幼児教育の無償化 (保護者負担の軽減)が実施されています!

幼稚園、認定こども園に通う
お子さんの保育料負担が軽くなります

【対象者・利用料】

幼稚園、認定こども園等を利用する
3歳から5歳児(小学校に就学するまで)
全ての子供たちの利用料が無償化されます。

幼稚園については、月額上限2.57万円まで無償になります。

幼稚園については入園できる時期に合わせて満3歳から
無償化(月額上限2.57万円)になります。通園送迎費、食材料
費、行事費などは、これまでどおり保護者の負担になります。

ただし、給食のある幼稚園で年収360万円未満相当世帯の
子供たちと全ての世帯の小学校3年生以下の兄姉から
数えて第3子以降の子供たちについては、副食(おかず・
おやつ等)の費用が免除されます。(市町村により実施の
有無があります)

0歳から2歳までの子供たちについては、
住民税非課税世帯を対象として
利用料が無償化されます。
(認定こども園のみ)

幼稚園の預かり保育

【対象者・利用料】

無償化の対象となるためには、
お住まいの市町村から
「保育の必要性の認定」を受ける
必要があります。

※「保育の必要性の認定」の要件については、
就労等の要件(認可保育所の利用と同等の要件)
がありますので、お住まいの市町村にご確認ください。

幼稚園の利用に加え、利用日数に応じて
最大月額1.13万円(1日上限450円)までの範囲
で預かり保育の利用料が無償化されます。
(保育の必要性の認定を受けた方)

幼稚園に いってみよう!

幼稚園に通う前の年齢のお子さんを対象に、子育て真っ最中の
ご家庭を応援する活動がたくさんあります。ぜひ参加してみてください。詳しくは、
各幼稚園にお問い合わせください。

※詳しくは各幼稚園にお問い合わせください。

幼児教育・保育の
無償化概要については
内閣府HPをご覧ください



あたたかいもの



私の人生の中で子どもをもつことができて本当に良かったと、生まれたてのわが子を
初めて抱いた時に思いました…。そんなお話をしてくださいました。

子育て真っ最中のお父さまお母さま、子どもたちがその家族にもたらしてくれるものは
計り知れないくらい大きなものです。その大きなものを一緒に楽しみ、大切にし、家族
の宝物として育てていければ、きっと素敵な未来になると思います。

2019年より幼児教育の無償化が始まりました。このことは幼児教育の重要性が
認められたことに他ならないのです。ではなぜ幼児教育が無償化になったのでしょうか。
それは人が人間らしい営みを社会の中で發揮し、今の子ども達が未来を生き抜いて
いってほしいという願いから実施されました。

今後の社会生活では、AIやIoTなどがますます発達するといわれています。2040年、
約20年後には今ある職業の半分がなくなり、今は新しい新たな職業に就くことになる
といわれています。まさしく今の子どもたちが社会に出て活躍し始めるころです。
では、今の子どもたちがそのような未来を生き抜いていくためには、どのような力が必要
なのでしょう。それはAIにはできない何かを生みだすこと、創造力・想像力・人の気持ちに
寄り添うこと・人を育てる事・思いやりの心・やり抜く力など、まさしく生まれてから小学校
就学頃までに体験し、経験するたくさんの目に見えない力であるといわれています。

あたたかい家庭生活の中で、お父さまやお母さまのあふれる愛情をたっぷりと子ども
たちに注ぐことこそが、子どもたちの「こころのねっこ」を育てるのです。

子育ては育てるつもりが育てられ 大変な時が大切な時
～京都の私立幼稚園は子どもと向き合うご家庭を支えます～

(公社)京都府私立幼稚園連盟